

地方創生拠点整備交付金 検証シート（平成30年度）

地域再生計画名称	基石海岸観光拠点化推進計画
----------	---------------

1 総合戦略での位置づけと重要業績評価指標の実績

（上段：目標値 下段：実績値）

概 要	重要業績評価指標	単位	KPI累計 （目標値）	事業開始前 現時点	単年度実績			目標達成率 （対H30実績）
					H28	H29	H30	
基本目標 2 大船渡への新しい人の流れをつくる 施策 1 観光誘客による交流人口の拡大 1－2 大船渡ファン獲得プロジェクト	① 基石海岸レストハウス売り上げ増加額	単 千円	50,000	45,583	0	35,950	47,100	64.7
					0	32,170	30,471	
	② 基石海岸レストハウス来場者延べ人数	単 人	47,000	35,705	0	37,240	40,765	74.1
					0	33,702	30,191	
	③ 基石海岸レストハウス「浜の仕事体験」利用延べ人数	単 人	1,150	0	0	50	250	12.4
					0	0	31	
	④							
	⑤							
計画期間	平成 28 年度 ～ 平成 32 年度（5ヵ年）							

2 交付金事業の計画内容・進捗状況・課題

計画内容	進捗状況（計画に対して何をしてどのような成果であったか）	課題（進捗状況を踏まえて残された課題は何か）	施策貢献度
平成29年度に基石海岸レストハウスのテラスや多機能トイレの改修、外装・内装等の模様替えを行うことで、三陸復興国立公園の景観に調和した外観にリニューアルしながら、安全で安心できる動線や休憩スペースを確保するとともに、浜の仕事体験室等の整備や基石海岸観光施設等連絡会議や大船渡市グリーンツーリズム推進協議会等と連携して民間事業者も含めた体験プログラムやイベント等の実施、市内事業者等の特産品や商品・食材等の提供を拡充することで、交流人口の拡大と地場産業の振興施策との一体的な事業として実施する。	平成29年度に基石レストハウスの改修、外装・内装等の模様替えが完了し、平成30年度からワカメの芯抜きやホタテの殻むき、ホヤの殻むき、サンマの塩焼き、新巻鮭づくり、イクラづくり、イカの塩辛づくり、アワビ試食、浜焼き、押し海草づくり、貝殻フレームづくり、柿むき、餅つき、ロープの結び方、ワカメしゃぶしゃ、基石海岸探索の体験メニュー（16種類）を提供するとともに、地域おこし協力隊と連携して、「ワカメ生産過程」と「ワカメの芯抜きの仕方」の映像を製作し、館内で放映しながら、情報発信した。 また、ローカルツアーデスクを毎週土曜日市内宿泊施設において開設し、観光客に手軽に体験できる体験メニュー等を周知し、売上額、来場者数、浜のしごと体験利用者数の集客を図った。	基石海岸レストハウスの体験プログラムによる集客を図りながら、地区内の観光スポットや体験プログラム等との有機的な回遊を図るための事業者間の連携を促進する必要がある。 ローカルツアーデスクでは、宿泊客を対象に紹介したことから、利用者が少数に留まった。事前に行程を決め、宿泊だけを大船渡市という人も多いことが分かった。宿泊予約段階で、体験プログラムや管区スポット等のコンテンツを提供する仕組みが必要である。	C <理由> 重要行政評価指標の目標値を達成できなかったが、次年度以降の活動により効果が期待できる。
担当課	観光推進室 新産業戦略室	観光推進室 新産業戦略室	観光推進室 新産業戦略室

3 今後の対応

基石海岸レストハウスをハブとして、地区内で活動する団体間を連携させる仕組みを整えながら、情報を一括管理し、相互に紹介する仕組みやローカルツアー化を検討し、民間主導での実現を目指す。 また、三陸町エリアでは、スポーツ・アクティビティで誘客する事業者が増えてきていることから、これらの来訪者を対象としたローカルツアーや体験プログラムの提供に取り組むとともに、市内全域に係る観光コンテンツの紹介、体験プログラム等の予約などが一括してできる手法を検討する。

地方創生推進交付金 検証シート（平成30年度）

地域再生計画名称	椿の里おおふなと拠点形成推進計画
----------	------------------

1 総合戦略での位置づけと重要業績評価指標の実績 (上段：目標値 下段：実績値)

概 要		重要業績評価指標		単位	KPI累計 (目標値)	事業開始前 現時点	単年度実績			目標達成率 (対H30実績)
							H28	H29	H30	
基本目標1 大船渡にしごとをつくり、安心して働けるようにする 施策2 新産業の創出と起業・第二創業支援 2-2 新分野進出促進プロジェクト	①	大船渡市総合交流ターミナル施設物 販売上増加額	単	千円	7,422	5,937	5,996	6,531	6,828	83.3
							5,515	4,757	5,688	
基本目標2 大船渡への新しい人の流れをつくる 施策1 観光誘客による交流人口の拡大 1-2 大船渡ファン獲得プロジェクト	②	大船渡市総合交流ターミナル施設来 館者延べ人数	単	人	35,000	23,694	24,500	27,000	30,000	74.3
							21,533	19,299	22,291	
	③	大船渡市総合交流ターミナル施設で の椿油搾油等体験者延べ人数	単	人	6,755	0	0	500	1,958	21.3
							140	527	417	
計画期間	平成 28 年度 ～ 平成 32 年度 (5ヵ年)	⑤								

2 交付金事業の計画内容・進捗状況・課題

計画内容	進捗状況（計画に対して何をしてどのような成果であったか）	課題（進捗状況を踏まえて残された課題は何か）	施策貢献度
大船渡市総合交流ターミナル施設の展示環境改善、ガラス温室及び椿油搾油機等を整備し、季節やイベントに合わせた植栽展示や搾油体験等で魅力を向上させながら、大船渡市農業協同組合、花き生産者、大船渡ツバキ協会、一般社団法人大船渡市観光物産協会等と連携した各種イベント等を企画・運営することで集客の通年化を図るとともに、民間事業者や団体と連携した椿油等を活用した商品開発等を行うことで、地場産業の振興施策と一体的な事業として実施する。	平成29年度に大船渡市総合交流ターミナル施設の展示環境改善、ガラス温室及び椿油搾油機等の整備を完了し、集客を図ったが、来館者延べ人数、椿油搾油等体験者延べ人数が目標値に届かなかった。 民間事業者も含めて活動全体を俯瞰できる官民組織として「椿振興官民懇談会」を立ち上げ、情報交換を行うとともに、椿の里づくり行動指針を定め、連携して取り組む体制を整えた。 民間主導での総合産業化に向けては、椿実収穫量約550kgを民間事業者において搾油したほか、椿油を活用した牡蠣、帆立、秋刀魚、ホヤの試作品を開発した。また、三面椿とヤブツバキの実から苗木を生産する取組に着手した。 また、 ○椿利活用推進事業（復興支援員制度） ・椿利活用支援員1名配置（4～6月：一般社団法人RCFに委託1名、8～3月：非常勤特別職1名） ・椿学習（3小学校、1中学校） ・植樹活動（3箇所/134本）、優良苗生産（440本） ・椿の実集めBOX（3台）及びチラシ等の製作及び設置 ・産業まつり、椿まつりへの出展 ○地域資源活用交流促進事業 ・明治大学との椿パーフェクトブック改訂版作成 ・相模女子大学とのつばきまつり等における活動	世界の椿館・基石の拡張したハウスでのバックヤード業務、苗木生産等により、既存の交流スペースでのイベント開催が容易になり、講座等の開催につながっているが、引き続き、人員配置をみながら、展示観光に留まらない体験型への移行を検討する必要がある。 椿実収穫については、収穫団体が確立しつつあるので、引き続き働きかけを強めながら、新たな収穫団体の掘り起こしを図る必要がある。 椿関連商品の開発にあたって、起業支援室と連携しながら6次産業化補助金の活用等具現化を図る必要がある。	B ＜理由＞ 整備前の重要行政評価指標の数値が事業開始前に戻ってきているものの、来館者延べ人数、搾油等体験者延べ人数が目標値を達できなかった。 次年度以降の活動により効果が期待できる。
担当課	農林課 新産業戦略室	農林課 新産業戦略室	農林課 新産業戦略室

3 今後の対応

椿の里づくり行動指針に基づき、官民それぞれが事業を展開しながら、椿油搾油所を中心として、入口となる植樹・椿実収穫、出口となる椿関連商品の開発・販売を一連の流れとして総合産業化を図るため、椿振興官民懇談会を定期的に開催し、情報交換や連携活動を継続する。 世界の椿館・基石については、展示観光に留まらない取組として、苗木生産に試験的に取り組み、民間主導事業として自走化を検討する。 椿関連商品開発については、起業支援室を連携しながら、各種支援制度を活用し、6次産業化として油、木の灰、葉などを原料とする商品開発を支援する。

地方創生拠点整備交付金 検証シート（平成30年度）

地域再生計画名称	スポーツ交流拠点形成推進計画
----------	----------------

1 総合戦略での位置づけと重要業績評価指標の実績

(上段：目標値 下段：実績値)

概 要	重要業績評価指標	単位	KPI累計 (目標値)	事業開始前 現時点	単年度実績			目標達成率 (対H30実績)
					H29	H30	H31	
基本目標2 大船渡への新しい人の流れをつくる 施策1 観光誘客による交流人口の拡大 1-1 スローシティ大船渡プロモーションプロジェクト 基本目標4 大船渡で生涯暮らし続けられる地域をつくる 施策3 持続可能な都市環境づくりの推進 3-2 公共施設適正配置とリノベーション推進プロジェクト	① 赤崎グラウンド利用収入増加額	単 千円	1,200	121	450	800	1,000	137.0
					134	1,096	—	
	② 赤崎グラウンド利用者延べ人数	単 人	42,000	16,200	7,700	30,000	35,000	55.0
					5,673	16,493	—	
	③ 赤崎グラウンドでの競技会等の利用に伴う宿泊者延べ人数	単 人	2,600	0	720	1,500	2,000	45.5
					110	683	—	
	④							
	⑤							
計画期間	平成 29 年度 ～ 平成 33 年度 (5ヵ年)							

2 交付金事業の計画内容・進捗状況・課題

計画内容	進捗状況（計画に対して何をしてどのような成果であったか）	課題（進捗状況を踏まえて残された課題は何か）	施策貢献度
本事業は、平成29年度に赤崎グラウンドの人工芝舗装整備やクラブハウス及び観客席等を整備し、競技グラウンドとしての魅力を向上させながら、一般財団法人大船渡市体育協会や大船渡市サッカー協会、Ｊリーガーの有志で組織する「東北人魂」等と競技会やイベント等を企画・運営することにより、スポーツ合宿等を誘致して市内外からの利用者の増大を図るとともに、一般社団法人大船渡市観光物産協会と連携して、市外からの利用者向けに地元体験プログラムや民宿等の紹介、誘客活動を展開することで、交流人口の拡大と観光関連産業の振興施策との一体的な事業を実施する。	平成29年度に赤崎グラウンドの人工芝舗装整備及びクラブハウスの新設や附帯設備等の整備が完了したものの、利用者数、宿泊者延べ人数は目標値に届かなかったが、開設以降、サッカーを中心に利用者は増加し、ジュニアを対象とした大会が開催されている。 また、一般財団法人大船渡市体育協会や大船渡市サッカー協会、Ｊリーガーの有志で組織する「東北人魂」等と連携した合宿やトレーニングマッチ等での誘客を図るとともに、岩手県旅館ホテル生活衛生同業組合大船渡支部等と大船渡市スポーツ施設整備検討委員会を設立した。	年間を通じて広くスポーツを楽しめる拠点として市民をはじめとする利用者の増加を図りながら、一般財団法人大船渡市体育協会、大船渡市サッカー協会、東北人魂等の体育関係者と宿泊関係者が連携し、宿泊者数の増加に向けた継続的な取組が必要である。	B <理由> 整備前の重要行政評価指標の数値が事業開始前に戻ってきているものの、利用者数、宿泊者延べ人数が目標値を達できなかった。次年度以降の活動により効果が期待できる。
担当課	生涯学習課 新産業戦略室	生涯学習課 新産業戦略室	生涯学習課 新産業戦略室

3 今後の対応

赤崎グラウンド利用に伴う宿泊者数を増やすため、サッカーのジュニアチームを対象に大会や合宿等を誘致するとともに、宿泊事業者への協力を依頼する仕組みをつくる。施設の認知度を高めるため、県内サッカーチームへの訪問や首都圏等の大学等での周知活動を展開する。